書　評

「太陽水素エネルギーがよく分かる本（地球最後の砦）」

ジョン・ボグリス／T・ネジャット・ヴェズィログル／デビィ・スミス著
井東 廉介訳

西田書店 ISBN4-88866-340-8

地球環境問題が、将来大きな問題になるとみなされ、地球規模の問題であるという認識に立ち世界各国の政府がこの問題に取り組むようになってからすでに約 10 年が経過しようとしている。この問題を解決するために「気候変動に関する国際連合枠組み条約国際会議（いわゆる COP 会議）」が発足し、温暖化対策の解決を検討している。報道などで取り上げられているとおり、各国とも地球温暖化対策に関して精力的な活動を行っており、わが国も、平成 9 年 12 月に内閣に地球温暖化対策推進本部を設置し、平成 14 年 3 月には地球温暖化対策推進大綱を閣議決定している。また、インターネット検索を行えば、地球環境問題、特に地球温暖化問題に関する情報は 100 件を裕に超える状況である。この 10 年の間に急速に表面化しつつある地球温暖化問題は、政府はもとより一般市民にも十分に認識され、政治を含め、社会運動にまで発展している。しかし、今から 10 年以上も前に、この問題の危険性を指摘し、かつ明快な解決方法を示している本が出版されていた。

「太陽水素エネルギーがよく分かる本（地球最後の砦）」は、今から 10 年以上も前の 1991 年に出版されていた。本書の著者であるジョン・ボグリスと T・ネジャット・ヴェズィログルは本協会の名誉顧問である太田時男氏とともに 1975 年水素エネルギー国際学会を設立した実績をもつ水素エネルギー研究の第一人者である。また、デビィ・スミスは全米水素学会事務局長を務めた水素エネルギー研究者である。米国の第一線の研究者たちが執筆したこの書籍は、水素エネルギーについての解説書であり、かつ啓蒙書である。

本書の特徴は、訳者の井東廉介氏が訳者序言に記しているが、専門知識を持っていない一般者向けに著した書籍である。社会基盤としてのエネルギー・システムの変遷とその問題点、環境への問題評価や人体への影響などを科学的資料に基づき分かりやすく解説し、従来の石油燃料や核燃料から水素燃料への転換を呼びかけているところにある。構成は、「20 世紀までのエネルギー」と「21 世紀からのエネルギー」という大きな 2 つの章立てとなっている。

第 I 章である「20 世紀までのエネルギー」では、これまで石油燃料および核燃料をエネルギー源とした場合の問題点について、科学的データを示しつつ平易に解説を行っている。石油エネルギーの使用が CO_2 を排出し地球温暖化の原因となっていることや人体に影響を及ぼすことについて、また、原子力エネルギーについてはチェルノブイリの事故を例にとり、核燃料の安全性について解説している。最後に提言という節を設け、現在使用されているエネルギーの問題点についてまとめている。第 II 章の「21 世紀からのエネルギー」では、本書の表題である太陽水素エネルギー・システムについて、なぜ太陽と水素の組み合わせが有効なシステムかを平易に、かつ明快に解説している。このシステムが現実化したときの実用上の問題点、あるいは自動車をはじめとした具体的なユーティリティーに応用した場合について SF 的な話を交えて解説しているところが興味深い。また、水素エネルギー社会を実現化するための方法を一般市民に対して問い掛けている部分もあり、読者を飽きさせない。太陽水素エネルギー・システムを法制化することを読者に喚起しているところでは、米国社会の文化的側面をも伺い知ることができる。

冒頭に記したような世界各国が取り組んでいる地球環境問題の提起に、本書がどの程度の影響を及ぼしたかは分からない。しかし、一般市民に地球温暖化問題を喚起させたことは想像に難くない。本書は、世界をリードする水素エネルギー研究者から 21 世紀の地球人へ贈ったメッセージである。

（東芝インターナショナルフュエルセルズ（株）原田 亮）